

大阪の MSM における HIV 感染動向の把握に関する研究 大阪ゲイコホートの継続

研究代表者：塩野徳史（大阪青山大学 健康科学部看護学科 准教授）

研究協力者：宮田りりい（公益財団法人エイズ予防財団/MASH 大阪）

宮階真紀、伴仲昭彦（公益財団法人エイズ予防財団/MASH 大阪）

大畑泰次郎、町登志雄（MASH 大阪） 鬼塚哲郎（京都産業大学文化学部/MASH 大阪）

研究要旨

大阪市と協働し、本年度は 6 回の HIV 抗体および梅毒抗原抗体検査会を実施した。

2021 年 3 月までの実施の概要について整理した。なお、HIV 陽性者については本検査会の確認検査を経て、新たに感染が判明した人の数である。2018 年度の受検者数は 249 人であり、HIV 陽性割合は 0.4%、梅毒抗原陽性（要治療）割合は 5.6%であった。2019 年度の受検者数は 210 人であり、HIV 陽性割合は 2.4%、梅毒抗原陽性（要治療）割合は 8.1%であった。2021 年度の受検者数は 114 人であり、HIV 陽性割合は 0.9%、梅毒抗原陽性（要治療）割合は 13.5%であった。

A. 研究目的

MSM 出生年代別にみた先行研究では AIDS 罹患率の推移は 1950 年代生まれ以外のいずれの年代でも増加傾向であった。近年では 1970 年代生まれや 1980 年代生まれでは感染拡大傾向は抑制されつつあるものの、出生年代層が若い群の方がより高く相対的に MSM 集団における感染拡大が示唆されている。特にゲイ向け商業施設利用者は性行動が活発であり、感染リスクの高い集団である。また MSM において梅毒は感染が増加していることも報告されており、MSM 対象の検査会での梅毒有病率は HIV 感染よりも高い。

MSM における HIV 感染や梅毒感染の状況を把握することは、今後の感染対策の方針の決定や予防啓発の評価尺度として極めて有効である。初年度は大阪のゲイ向け商業施設を中心としたゲイコミュニティにおいて、血液検査と連動させた前向きコホートを構築することを目的とした。本報告では検査会利用者の属性について明らかにすることを通して、コ

ミュニティセンターでの検査会の効果について検討する。

B. 研究方法

1) コホートの継続

本研究では対象者の個人特定には生体認証の技術（スワイプ式指紋認証システム）を応用したシステムによって、住所や氏名などの個人情報取得することなくコホート集団を構築することとした。認証された指紋情報は、ソフトウェア（OmniPass）を活用し、暗号化した上で ID を発行する仕組みとした。対象者には口頭で説明し、同意を得た上で指紋情報を登録してもらい、内蔵されたソフトウェアによって暗号化し、指紋情報と一致させた個別の ID を番号シールとして発行した。情報の保守性を考慮し、本研究で活用する機器端末は、インターネット接続されない仕組みとし、本年度は前回の検査日時も伝えられるよう、OS のバージョンアップを行った。

2) 分析方法

各回の受検者の属性について単純集計を行った。年齢はコミュニティセンター利用者と同様に、24歳以下、25歳-34歳、35歳以上の3区分の年齢層に分類した。質問項目は、年齢層、性別、居住形態、職業、セクシュアリティなどの基本属性と、過去6ヵ月間の商業施設などの利用状況、性感染症既往歴、性行動、検査行動、コミュニティセンターdistaの利用状況、本検査会における満足度とした。

本年度は2018年、2019年の月別に検査会利用者の分析を進めた。単純集計にはSPSS23を用いた。

なお、本調査は大阪青山大学倫理委員会の承認も得て実施した。

C. 研究結果

実施状況について2020年度の概要は、各年度の研究報告書に示した。なお、HIV陽性者については本検査会の確認検査を経て、新たに感染が判明した人の数である。2018年度の受検者数は249人であり、HIV陽性割合は0.4%、梅毒抗原陽性（要治療）割合は5.6%であった。2019年度の受検者数は210人であり、HIV陽性割合は2.4%、梅毒抗原陽性（要治療）割合は8.1%であった。2020年度の受検者数は114人であり、HIV陽性割合は0.9%、梅毒抗原陽性（要治療）割合は13.5%であった。

2018年、2019年の検査利用者について月別に受検者アンケートの結果を表5～表8に示した。2018年のアンケート回答者数は266人であり、2019年のアンケート回答者数は201人であった。本検査会が初受検になった人の割合は2018年が10.7%～28.2%（ $p=0.15$ ）であり、2019年は2.8%～17.2%（ $p=0.56$ ）であった。ゲイ向け商業施設利用者の割合は2018年が66.7%～82.0%（ $p=0.62$ ）であり、2019年は62.9%～78.1%（ $p=0.75$ ）であった。2020年のアンケート回答者数は114人であった。本検査会が初受検になった人の割合は10.5%であった。ゲイ向け商業施設利用者の割合7.0%～49.1%であった。

D. 考察

これまでと比較して全体的に初受検者10%程度と少なく、リピーターの利用が多い傾向だが、1月は初受検者が多かったと考えられる。

「distaでピタッとちえっくんを今後も利用したいと思いますか」という設問では「利用したい」と思う理由と「利用したくない」と思う理由をそれぞれ自由記述にて記入してもらっているが、アンケートの最後では「distaへのご要望など」についても自由記述欄を設けているが、利用したいが91.4%と高かった。

初受検者数が約10%程度に収まったことについて、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で検査会へ参加しづらくなっているのが要因かと意見があった。

E. 結論

本検査会は大阪市が事業化を継続しており、安定して運営できる体制が構築できていると考えられる。受検者数は毎回30人前後となり、コミュニティにとっても定着化しつつあったが、コロナ禍の影響により今年度は半減した。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) ○塩野徳史, 市川誠一, 金子典代, 佐々木由理: 都市部保健所におけるHIV抗体検査受検者の特性, 厚生指標, 2018, 65(5): 35-42
- 2) ○金子典代, 塩野徳史, 本間隆之, 岩橋恒太, 健山正男, 市川誠一: 地方都市在住のMSM (Men who have sex with men) における調査時点までと過去1年のHIV検査経験と関連要因. 日本エイズ学会誌, 2019, 21(1) (受理済).

2. 学会発表

- 1) ○塩野徳史 ゲイコミュニティにおけるHIV抗体検査—『これまで』と『これから』

- ら』 シンポジウム 3 HIV 将来予測と流行阻止 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 2) ○塩野徳史 HIV 検査の受検阻害要因としてのスティグマ シンポジウム 4 スティグマの払拭は誰が担うのか 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 3) ○塩野徳史, 後藤大輔, 町 登志雄, 宮田りりい, 大畑泰次郎, 伴仲昭彦, 鬼塚哲郎, 市川誠一 商業施設を利用しはじめる若年層 MSM を対象とした予防啓発介入の開発と効果評価 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 4) ○荒木順子, 金子典代, 木南拓也, 岩橋恒太, 佐久間久弘, 阿部甚兵, 大島 岳, 太田 貴, 石田敏彦, 塩野徳史, 新山 賢, 金城 健, 本間隆之, 市川誠一 akta で展開したセーフティーセックスキャンペーンとコミュニティベース調査による効果評価 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 5) ○宮田りりい, 塩野徳史, 後藤大輔, 町 登志雄, 大畑泰次郎, 市川誠一 MSM における性交相手との出会いの場所と方法一年齢層による差異について 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 6) ○塩野徳史, 後藤大輔, 町 登志雄, 宮田りりい MSM における検査行動に関する尺度開発とコミュニティセンターdista利用者の変化 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 7) ○後藤大輔, 中村理恵, 宮田りりい, 塩野徳史 若年層向けの行政と連携した予防啓発方法の試み 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 8) ○川畑拓也, 小島洋子, 森 治代, 駒野 淳, 岩佐 厚, 亀岡 博, 菅野展史, 近藤雅彦, 杉本賢治, 高田昌彦, 田端運久, 中村幸生, 古林敬一, 清田敦彦, 伏谷加奈子, 塩野徳史, 後藤大輔, 町 登志雄, 柴田敏之, 木下 優 大阪府における MSM 向け HIV/STI 検査相談事業・平成 28 年度実績報告 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 9) ○Takaku Michiko, Dorjgotov Myagmardorj, Gombo Erdenetuya, Galsanjamts Nyampurev, Jagdagsuren Davaalkham, Ichikawa Seiichi, Shiono Satoshi, Kaneko Noriyo, Oka Shinichi Studies on NGOs' HIV prevention interventions targeting MSM community in Mongolia The 31st Annual Meeting of the Japanese Society for AIDS Research, Tokyo, Nov. 24-26, 2017
- 10) ○櫻井理恵, 真木景子, 浦林純江, 青木理恵, 浅井千絵, 松本健二, 小向 潤, 植田英也, 半羽宏之, 松村直樹, 久保徹朗, 安井典子, 塩野徳史, 市川誠一 保健福祉センターにおける HIV 抗原抗体検査受検者アンケートから見た MSM 対策の評価 ワークショップ 3 検査・相談体制 第 31 回日本エイズ学会学術集会・総会 東京, H29. 11. 24-26
- 11) ○塩野徳史: U=U をめぐるメッセージと予防啓発 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会 シンポジウム 9 U=U 誰が何をどう伝えるか: 陽性者の人権とスティグマゼロへの取り組みを視野に入れて 大阪, H30. 12. 2-
- 12) ○塩野徳史: 社会分野における予防指針の課題 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会 日本エイズ学会シンポジウムエイズ予防指針改定の背景と課題 大阪, H30. 12. 2-4

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得
なし。

2. 実用新案登録

なし。

3. その他

なし。